



前号に続いて、ゴミ問題をもう少し突っ込み、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。私たちの台所などから出るゴミの量は一年間で、六、五三二トン、一〇トンダンブカーで約六五四台にもなり、これを一人当りで換算しますと、およそ三三〇キログラムにもなり、一人が一日に出す量はというと約九〇〇グラム、新潟市などの都市部になると、二キログラムにもなっているといわれています。

このほか、自分で搬入し処分(町の委託業者を経由)する量が二四六トン、従って年間総排出量は六七七三トンの膨大な量になります。特に前号でお願いしたように、「不燃物」は捨てる前にもう一度よく考えてみよう。最近、廃品を利用して、新品同様の台所用品に生まれ変わったり、ちよつとしたアイデアで再生可能な品物が私たちのまわりにたくさんあるはず。資源のまったく無いといってよい我が国は、鉄製品をはじめ化学製品の原料のほとんどは海外に依存している状態は言うまでもありません。石油危機が叫ばれるとい

今日、用途の広い「石油」前号でお知らせしたように、もはや石油なくして私たちの生活を支えることはできないほど貴重なものとなっています。数十年前は「黒いダイヤ」と呼ばれた石炭が燃料、その他の製品の主流を占めていたものですが、今度は「黒い水」が世界を支配するに至り、先月開かれた、東京サミ



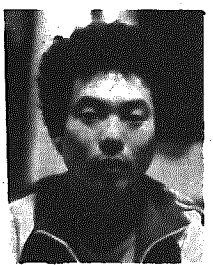
販売者も消費者も知恵を出し

私は先回の広報くろさきを拝見して、事の重大さに驚きました。やはり、再利用できるものは再利用をはかることが大切だと思えます。バックなどの容器は便利で重宝ですが、これも燃えないゴミの一種です。販売者も消費者もお互いに知恵を出し合って、燃えないゴミの生産、消費を考える努力が必要であり、認識を新たにしなければならぬ時代に来たたのではないのでしょうか。前回のように広報くろさきなどを通じて、このゴミの問題を広く住民から知ってもらうことは良い事だと思えます。 奥野 本田凌子



ゴミの山から緑の憩いの場を

観光資源の少ないわたしたちの町は、現在、結立か焼餅の旧跡くらいのもの、そこで町が三町歩程を買取して燃えないゴミを埋め立て、ここに土を盛り、木を植えるの多い、町内を見わたせるような山を造成し、お年寄りから子どもまで町民全員の憩いの場として使用できたら、もう一つは、現在、中八口川の流域変更の話があるが変更できれば当然、河川敷ができる、そしてまた、新田町裏の河川敷を地域住民の理解が得られたらそこを利用したらどうかと思う。 二ノ丁 竹内竹市



埋立地の確保と再生の両立を

NHKが放映する「にいがた640」の児童画廊に、二十三日、二十八日まで、木場小学校児童の絵が登場します。どうぞご覧下さい。 NHK 「にいがた640」に 木場小学校が 登場

成人式 八月十五日 総合体育館

省エネルギーは あなたの手から

ガソリンスタンドの日曜・祝日休業、マイカー通勤の自粛、冷房温度の調整——など、国を挙げて「省エネルギー時代」への対応を急いでいます。

産業、輸送、民生すべてのエネルギー需給の約七割を石油でまかない、その石油の九九七%を海外から輸入しているわが国にとってこれからの暮らしを守るために欠かせないのが、省エネルギーの推進です。 エネルギーを、ムダなくどう効率的に使うかは、わたしたち一人一人の心がけにかかっているといえます。

「わびさびの精神」を生かそう

わたしが生まれ育ったフランスでは、電気もガスも水道も、普通の日用品や衣類と同じように「買う」という感覚なんです。フランス人は、物を買うのにこのほか慎重です。そして、一度買ったなら、とことん大切に使います。ですから、電気などのエネルギーも同じで、買った以上はムダなく大切に使う習慣が、小さいころから身につけて



フランソワーズ・モレシャン (ファッションアドバイザー)

日本人が、長い歴史の中ではくんできた、いわゆる生活の知恵の数々に、わたしは日本のみなさんの「エレガンスな心」を見る思いがあります。ところが残念なことに、現在の日本人の生活に、伝統的な生活の知恵があまり生かされていないように思えるのですが、いかがでしょうか。 日常生活が便利になるに越したことはありませんが貴重なエ

います。物を粗末に扱うという事は、人間として恥ずかしいこと——という意識が強いんですね。物を大切に、つまり省資源省エネルギーは、心のエレガンス(優雅)の問題だと思えます。心のエレガンス——日本の伝統に即して言えば、「わびさび」の精神にも通じる「優雅な作法(心)」とでもいうのでしょうか。

粗大ゴミを収集

テレビ 冷蔵庫、洗濯機、自転車、家具、トタン等の大型ゴミを是非この機会にお出し下さい。

- 期日 一、八月七日(火) 毎週水金曜日 一、八月十日(金) 毎週火木土曜日

在宅身障者のための「話の広場」

在宅身障者の皆さん、青空の下で集まりませんか、私達「話の広場」の会は、小さな光を大きな光にするために、障害



の収集区域 一、時間は何れも午前八時三十分までに集積所へ出して下さい。 一、自動車等のタイヤ又は多量の建具タタミ等は収集いたしませんのでご注意ください。 一、粗大ゴミを出す場合は十分注意して丁寧に積み上げて下さい。 一、収集日を守り指定以外ゴミを出さないで下さい。

等級に関係なく普段外に出ない程度の皆さんの積極的な参加を心からお待ちしております。話の広場はあなたの世界を広くし仲間作り人間作りに夢多き身障者の集まりです。去る六月七日西川町福祉会館において初めて集会を開きました。これからは各市町村で集会を開き市町村長、福祉関係者に出席して頂き在宅身障者の認識を深めてもらいます。又、会員相互の交流、情報交換、ハイキング、施設訪問、他の会との交流会等色々計画しています。是非参加して下さい。一般健全者の皆様の協力もお願い致します。「話の広場」 連絡先 会長 稲葉勝嘉 会員 渡辺育子 住所 善久 961 電話(7)2654